

政策	5章 政策1	産業人材を育成する		
主管課	商工水産課	関係課	農政課、観光・スポーツ振興課	

1. 政策の方針・指標・関係者の意見等

(1) 政策の対象と方針

対象	政策の方針
就業予定及び就業者	産業の発展や生産力向上のためには、経営改善や人材育成も不可欠です。産業や地域事業者それぞれの特性に即しながら、現代社会のニーズに応じた競争力を高め、人づくりや人材の確保・働き方の改善などに取り組んでいきます。

(2) 政策の基礎的データとなる指標

基礎的指標			単位		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
①	生産年齢人口		人	見込値								
				実績値	37,601	37,658	37,355	37,085	37,042	36,928		
②				見込値								
				実績値								
③				見込値								
				実績値								

(3) 総合計画等の指標の目標値・見込値・実績値及び施策コスト

(3) 総合計画等の指標の目標値・見込値・実績値及び施策コスト							前期基本計画期間					
指標区分		指標	単位		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度 (前期目標値)
A	総合計画	担い手農家数（認定農業者）	人	目標値					101	104	107	110
				見込値					101	104	107	110
				実績値	101	85	101	98	100	100	93	
B	総合計画	担い手漁業者数（組合員）	人	目標値					112	113	114	112
				見込値					112	117	118	119
				実績値	107	105	105	111	116	118		
C	総合計画 (総合戦略)	若手経営者研修会回数（累計）	回	目標値					5	7	9	10
				見込値					5	8	6	6
				実績値	2	2	2	3	6	6		
D	総合計画 (総合戦略)	観光ガイド登録人数	人	目標値					17	18	19	20
				見込値					9	9	10	11
				実績値	13	13	13	8	8	8	8	
E	総合戦略	「新たに就業または転職する場合糸満市で働きたい」と答えた市民の割合	%	目標値					57.0	58.0	59.0	60.0
				見込値					57.0	58.0	59.0	60.0
				実績値	-	56.9	-	-	39.8	35.9	-	
F	参考	認定新規就農者数	人	目標値					4	4	4	4
				見込値					4	4	4	4
				実績値	11	10	4	8	5	11	4	
G	参考	地場産品販路拡大事業受講事業者数	人	目標値					10	10	10	10
				見込値					10	10	0	0
				実績値	-	-	-	-	37	23		
H												
施策コスト 施策に係る事務 事業の合計額	事業費			千円				35,819	40,864	41,750	0	0
	国・県支出金			千円				34,808	39,869	40,569		
	地方債			千円				0	0	0		
	その他			千円				167	170	182		
	一般財源			千円				844	825	999		

※令和4年度以前の数値については、把握できるもののみ入力。

(4) 総合計画等の指標の設定理由及び目標値・見込値の考え方

A	総合計画	担い手農家数（認定農業者）
	設定理由	農業における後継者不足解消の観点から、担い手農家数を把握する。（農政課資料）
	目標値	期間満了農家の再認定に加え、新規就農者数の認定を加え10人の増加を目指す。
	見込値	高齢化に伴う離農からここ数年減少する年度もあったが、新規就農者数が増加しており今後も増加を見込む。
B	総合計画	担い手漁業者数（組合員）
	設定理由	漁業における後継者不足の解消の観点から、担い手漁業者数（糸満漁業協同組合正組合員数）を把握する。（商工水産課資料）
	目標値	糸満漁協正組合員数を維持しつつ、10年間で10人の増加を目指す。
	見込値	担い手漁業者となる若者の希望者も増えていることから、毎年度1人の増加を見込む。
C	総合計画（総合戦略）	若手経営者研修会回数（累計）
	設定理由	商工業の人材育成の観点から、商工会が実施する若手経営者研修会の開催回数を把握する。（沖縄県商工会連合会主催の研修）
	目標値	商工会青年部において、若手経営者研修会を毎年度2回行う。
	見込値	年6回程度の自主研修で資質向上を図っているものの、これ以上回数を増加させることは難しいと考えることから、もって目標達成は困難と考える。
D	総合計画（総合戦略）	観光ガイド登録人数
	設定理由	観光業の人材育成の観点から、糸満市観光協会におけるガイド登録人数を把握する。（糸満市観光協会資料）
	目標値	平成30年度の数値を基に、毎年度1人の登録を目指す。
	見込値	元ガイドに復帰を呼び掛けるとともに、外国人を含めた新たなガイドの育成に取り組むことにより、観光ガイド登録人数の増加を目指す。
E	総合戦略	「新たに就業または転職する場合糸満市で働きたい」と答えた市民の割合
	設定理由	人材育成の上で市内での就業を目指す観点から、市内での就業意向について市民アンケートで把握する。（市民意識調査）
	目標値	糸満市で働きたい市民の割合を毎年度1％の増加を見込む。
	見込値	糸満市で働きたい市民の割合を毎年度1％の増加を見込む。
F	参考	認定新規就農者数
	設定理由	農業における後継者不足の解消の観点から、新規（若者）の担い手農家数を把握する。（農政課資料）
	目標値	期間満了（就農5年）の認定新規就農者は認定農業者へとつなげていき、毎年度4人の増加を目指す。
	見込値	新規（若者）の就農希望者が増加していることから、毎年度4人の増加を見込む。
G	参考	地場産品販路拡大事業受講事業者数
	設定理由	産業人材の育成の観点から、地場産品販路拡大事業の受講者数を把握する。
	目標値	市内企業1,927社（2016年経済センサスから）のうち、40事業者（約2％）に対するセミナー（EC、DXの導入等）の受講者数を目指す。
	見込値	目標達成に向けて実施していた「地場産品販路拡大事業」が令和5年度をもって終了しており、同事業の実施以外で目標を達成することは困難である。
H		
	設定理由	
	目標値	
	見込値	

<p>(5) 環境変化（個別計画策定状況、近年・今後の外部環境の変化等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業者の高齢化は著しく、減少傾向にある。令和2年（2020年）2月時点の農林業センサスによると、本市の農業者で最も多い年齢層は65歳～69歳（令和7年は70歳～74歳に。150名・15.1％）。次に多いのは70歳～74歳（令和7年は50歳～79歳に。130名・13.1％）。54歳以下の就農者（令和7年は59歳以下）は254名・25.6％にとどまる。新規就農者に対する施策は喫緊の課題。</li> <li>・令和4年10月にイマイユ市場の供用開始</li> <li>・少子高齢化に伴う労働人口の減少が、観光産業の人材不足という深刻な問題を引き起こしている。</li> <li>・円安によるインバウンド需要が増加する一方で、燃料費高騰等の影響を受けた修学旅行が減少している。</li> <li>・人手不足の解消に向け、ＡＲ音声解説などのＩＣＴ技術を活用した観光コンテンツの導入が進んでいる。</li> </ul>
--

<p>(6) 関係者の意見・要望</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認定農業者に対して、特例低金利で利用できる融資制度及び農業者年金保険料の助成制度の整備の要望がある。</li> <li>・認定農業者・認定新規就農者の認定申請書を作成できるのは、主に沖縄県とＪＡ職員だ。負担軽減を図るため、市町村職員のスキル向上を求める声がある。</li> <li>・イマイユ市場での水揚げ増加に向けた各種施策の展開が期待されている。</li> </ul>
---

## 2. 政策の実績評価

(1) 令和7年度（前期目標値）の指標の達成見込み							
指標A	総合計画	【 担い手農家数（認定農業者） 】					
	<input checked="" type="checkbox"/> 現在の計画、取り組みにより目標達成（見込み）	<input type="checkbox"/> 新たな取り組み等により目標達成の可能性あり		<input type="checkbox"/> 現在の想定では目標達成が困難			
理由	認定申請書を提出し審査中の農業者は一定数いることから、これをもって目標達成を見込む。						
指標B	総合計画	【 担い手漁業者数（組合員） 】					
	<input checked="" type="checkbox"/> 現在の計画、取り組みにより目標達成（見込み）	<input type="checkbox"/> 新たな取り組み等により目標達成の可能性あり		<input type="checkbox"/> 現在の想定では目標達成が困難			
理由	令和4年10月にイマイユ市場の供用開始から、糸満漁協への新規組合員参入の動きが出てきており、目標達成は可能と見込む。						
指標C	総合計画（総合戦略）	【 若手経営者研修会回数（累計） 】					
	<input type="checkbox"/> 現在の計画、取り組みにより目標達成（見込み）	<input type="checkbox"/> 新たな取り組み等により目標達成の可能性あり		<input checked="" type="checkbox"/> 現在の想定では目標達成が困難			
理由	年6回程度の自主研修で資質向上を図っているものの、これ以上回数を増加させることは難しいと考えることから、もって目標達成は困難と考える。						
指標D	総合計画（総合戦略）	【 観光ガイド登録人数 】					
	<input type="checkbox"/> 現在の計画、取り組みにより目標達成（見込み）	<input type="checkbox"/> 新たな取り組み等により目標達成の可能性あり		<input checked="" type="checkbox"/> 現在の想定では目標達成が困難			
理由	コロナ禍において、民泊と観光ガイドを兼業していた登録者数が大幅に減少した。民泊需要の回復が見込めない現状では、観光ガイドの確保が困難となっており、もって目標達成は困難と見込む。						
指標E	総合戦略	【 「新たに就業または転職する場合糸満市で働きたい」と答えた市民の割合 】					
	<input type="checkbox"/> 現在の計画、取り組みにより目標達成（見込み）	<input checked="" type="checkbox"/> 新たな取り組み等により目標達成の可能性あり		<input type="checkbox"/> 現在の想定では目標達成が困難			
理由	令和5年度の調査結果は35.9％と令和元年度の56.9％から21％減少した。年度によって調査結果の変動が大きい指標と考えられるものの、減少している要因等について検証する。併せて、真栄里地区の新たなエリアで企業誘致に取り組み雇用の場を創出する他、子育てや教育など各種施策に取り組むことで目標達成を目指す。						
指標F	参考	【 認定新規就農者数 】					
	<input checked="" type="checkbox"/> 現在の計画、取り組みにより目標達成（見込み）	<input type="checkbox"/> 新たな取り組み等により目標達成の可能性あり		<input type="checkbox"/> 現在の想定では目標達成が困難			
理由	認定新規就農者を希望する農業者は一定数いることから、これをもって目標達成を見込む。						
指標G	参考	【 地場産品販路拡大事業受講事業者数 】					
	<input type="checkbox"/> 現在の計画、取り組みにより目標達成（見込み）	<input type="checkbox"/> 新たな取り組み等により目標達成の可能性あり		<input checked="" type="checkbox"/> 現在の想定では目標達成が困難			
理由	目標達成に向けて実施していた「地場産品販路拡大事業」が令和5年度をもって終了しており、同事業の実施以外で目標を達成することは困難である。						
指標H		【 】					
	<input type="checkbox"/> 現在の計画、取り組みにより目標達成（見込み）	<input type="checkbox"/> 新たな取り組み等により目標達成の可能性あり		<input type="checkbox"/> 現在の想定では目標達成が困難			
理由							
指標の数	7指標	うち現在の計画、取り組みにより目標達成見込み	3指標 (42.9%)	うち新たな取り組み等により目標達成の可能性あり	1指標 (14.3%)	うち現在の想定では目標達成が困難	3指標 (42.9%)

### (2) 前年度比較（令和4年度の市の取り組み・成果との比較）

評価	成果はほとんど変わらない(横ばい状態)	【5段階評価】 かなり向上～どちらかと言えば向上～ほとんど変わらない～どちらかと言えば低下～かなり低下
理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定農業者、認定新規就農者の認定に当たり、専門家を集め認定審査会を開催する必要がある。認定要件を満たし意欲のある農業者も一定数なので、短期で大きく数値が向上する指標ではない。</li> <li>・イマイユ市場の供用開始に伴い、イマイユ市場の水揚げ増加に向けて、糸満漁協による組合員勧誘の成果が少しずつ出ている。</li> <li>・観光ガイドの登録者数は8人だが、実働は6人である。</li> </ul>	

### (3) 他自治体との比較（令和5年度の実績の県内他市等との状況比較）

評価	他自治体と比べてどちらかと言えば高い（良い）水準である	【5段階評価】 高い水準～どちらかと言えば高い水準～ほぼ同水準～どちらかと言えば低い水準～低い水準	比較対象	県内11市
理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定農業者数は県内11市中3位で、本島内では1位となっている。</li> <li>・糸満漁協は、県内では比較的多い組合員数を有している。</li> <li>・沖縄県内における観光業の人材不足は深刻な問題となっている。</li> </ul>			

## 3. 政策を推進する上での現状と課題及び今後の取組方針

(1) 令和6年度の現状（令和5年度の実績を踏まえた政策（施策の展開）の取り組み）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定新規就農者を対象にした補助事業実施の希望者が多い。当該事業を活用することにより、初期投資の負担軽減、脆弱な経営基盤の安定化に資する。</li> <li>・イマイユ市場の水揚げ増加に向けた施策展開に向けて取り組みを継続している。特に、沖縄県漁港漁業課で進める糸満漁港海業振興を促進し、海業振興策の計画づくりに地元としての意見を反映するよう取り組んでいる。</li> <li>・観光協会の登録会員数について、令和6年度から会員の定義をあらため、継続して会費を納入する者を会員としたことから、令和5年度の143人から61人減少し、令和6年3月31日現在82名となっている。</li> </ul>	
(2) 令和6年度の課題（政策（施策の展開）を推進する上での課題）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定申請書作成業務における担当職員の資質向上。</li> <li>・認定新規就農者の営農継続支援。</li> <li>・認定新規就農者の認定における営農実態の見極め。</li> <li>・漁業就業の魅力づくりとして、イマイユ市場活性化に向けた施策展開に取り組んでいるが、漁業者用の厚生施設や宿泊施設、冷蔵・冷凍倉庫、加工場、水産物消費施設等の整備促進等、多種多様な施設整備を促進する必要があることから、長期的な取り組みが必要となっている。</li> <li>・観光ガイドの育成には、財源の確保に加え、専門的な知識やスキルを習得できる育成プログラムの開発が不可欠であり、これに取り組めていない状況にある。</li> </ul>	

(3) 令和7年度の取組方針（令和6年度の現状・課題を踏まえ、令和7年度に優先的に取り組む予定のもの）	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定新規就農者の営農継続のため、県・ＪＡの農業技術指導講座を紹介し、糸満市農業青年クラブの活動を支援する。</li> <li>・農業委員によるサポートチーム開催を、従前は認定新規就農者認定後に行っていたが、今後は認定前に行うなど、複数回開催する。</li> <li>・令和6年度に引き続き、イマイユ市場の水揚げ増に向けた、各種の施策展開に向けた取り組みを継続していく。特に、県漁連でイマイユ市場に整備する予定の水産作業軽労化施設（漁獲物水揚げ用クレーン）の整備を促進し、また、沖縄県で整備する漁船の修理施設となる船揚場整備を促進する。</li> <li>・令和8年度から始まる第2次糸満市観光振興基本計画の策定に向け、令和7年度は、観光協会など関係機関で構成される策定委員会を設置し、観光ガイドなどの人材育成について協議し、具体的な方向性を検討する。</li> </ul>	